☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

報道で見る氷上西高　２０１９

読売新聞　令和元年５月２８日（火）

地域の課題 高校と研究

丹波市 柏原など３校協定

若いアイデア 市長ら期待

人口減少など丹波市が抱える地域課題の解決に向けて、市内にある県立高校3校と市が協力して研究する活動を始める。これに伴い27日、市役所で活動に関する連携協定書の締結式が、市長や校長らが出席してあった。生徒たちによる研究成果は「高校生議会」などの場で発表されるという。（田中聡）

活動は、柏原高（柏原町）が今年度、文部科学省から「高校教育改革推進事業」で「グローバル」（地球規模）と「ローカル」（地域）の視点でリーダーを育成する「グローカル型」に全国の20校のうち1校として指定されたことがきっかけだ。

指定に合わせ、長年、地域での奉仕活動や住民との交流を行っている氷上高（春日町）と氷上西高（青垣町）も協力し課題研究に取り組むことになった。

活動について、「地域との協働による高校教育改革推進事業に関する連携協定書」の文書を締結。生徒らは3年間、人口減少や地域の活性化などの課題を研究する運びで、今後、内容を詰めていくという。

締結式では、谷口進一市長は「研究に必要な情報を市から提供し、アドバイスも行いたい。課題について提案を受けるのはうれしく、内容はしっかり吟味したい。『高校生議会』を開いて発表の場にしたい」と述べた。

井上千早彦・柏原高校長は「将来、世界のどの場所からでも丹波市のことを発信できる人材育成を目指す」とし、大森秀一郎・氷上高校長は「連携事業でグローバルな視点を持った人材を育てる」と強調。山口文和・氷上西高校長も「地域とともに歩んできた学校。事業を通じ地域に貢献していきたい」などと抱負を話した。

連携協定書を締結した谷口市長（左から２人目）と市内の３校の県立高校長（丹波市役所で）